

第2回 先端医療センター Monthly Lecture



御子柴 克彦先生（理化学研究所 脳科学総合研究センター）

正常と異常の比較から生命現象の本質をのぞく

多くの研究機関や関連企業が集積し、クラスターとしての体制が整いつつある神戸医療産業都市における次の課題は、意見交流の場を様々な形でつくりだし、関係者の縦横の協力関係を構築し、最近の研究開発をめぐる大きな変化に対応する体制を作り上げることです。その一つの試みとして、優れた研究者による講演会を定期的で開催し、交流、協力関係構築のきっかけを提供したいと考えております。

学会や交流会は盛んに行われており、最新のトピックスを伺う機会は豊富にありますが、優れた研究者の一連の研究の歩みや領域全体の研究の流れを伺う機会は多くはありません。そこで、本レクチャーシリーズでは優れた研究者をお招きし、十分な時間を取って一連のストーリー、考え方、研究に対する思い入れをお話しいただきます。

先端医療センター長 鍋島 陽一

日時・場所

2011年6月30日（木） 16:00～17:30

臨床研究情報センター（TRI）第1研修室

※参加費は無料です。事前登録は不要ですので、直接会場へお越しください。

■講師

御子柴 克彦先生

独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター
発生神経生物研究チーム・チームリーダー

研究室 URL: http://www.brain.riken.jp/jp/k_mikoshiba.html

■講演タイトル 正常と異常の比較から生命現象の本質をのぞく

■講演内容

我々の体は、分子-細胞-組織-臓器-個体の一連の流れの中で全ての現象が正常に働くことにより、正常な健康状態を保つことが出来る。しかし「正常」のみの観察では必ずしも生命現象の本質を見極めることは難しい。「異常」と「正常」との比較解析をすることにより、思いもよらない新しい生命現象を見出すことが出来、新しい発見をすることが出来る。そのいくつかの例を紹介したい。

■お問い合わせ先

Mail: qanda@fbri.org

TEL: 078-306-0708